常磐毎日新聞

十一月五日（金曜）夕刊

定價 一部金貳錢 一ヶ月金五拾錢 郵送五拾錢
廣告料率 通一行五拾錢 場所指定一行七拾錢
日曜祝祭日の翌日休刊
發行兼編輯人 印刷人 磐城郡平・長橋町三五 坂本也治
發行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社（磐城日報）東京 四〇二一〇番

天氣豫報

今晩は北東の風 曇後小雨
明日は北東の風 曇後小雨

第二次國民精神總動員週間

來る十日から一週間

平市プランを協議

一週間を第二次精神總動員強調週間として全國一齊に行はれるので平市では近く振興委員會を開き第一次よりも更に意義ある週間のプランを協議することになつた

はベルギーに開かれ各論續出してその行く所を知らざる狀態にある時我が國では擧國一致東洋平和建設に邁進して國民の精神動員を敢行、非常時克服を行つてゐるが來る十日から

搜査線上に浮ぶ株店荒し怪紳士

その道の强か者『前村』と斷定

指名手配全國に飛ぶ

（既報）錦村昭和人絹株式會社渡邊德藏（五五）と自稱し去月十三日帝國製麻新株五十圓券を巧みにつぎ合せ舊株五百圓に變造福島市大町株式店三津間勝治氏（四三）を通じ安田銀行支店から四百五十圓を詐取その足で平市に現れ市內三丁目友部株式店に横山彪氏を訪れ株の賣買交渉を持寄つたが感づかれたと知つて怪紳士は脫兎の如く姿を晦ましその後當局の躍起の搜査も空しく搜査線上に浮び上つて來なかつたが九月下旬山梨縣下に同一手口の智能犯罪が發生し居り犯人は未だ逮捕されて居らず人相手口其の他から同一犯人との推定を深からしめて來たので連絡搜査中右犯人は本籍富山縣西蠣波郡福岡町元クレート商有價證券僞造行使前科四犯渡邊康雄こと前村植太郎（四九）の同一犯行と判明三日全國に指名手配を行ふと共に東京に潛入してゐる形跡があるので警視廳に逮捕方を依頼した

尙は犯行の手口から見て昭和九年福島電燈株五十圓拂込み領收證を五十株領收證に改竄一千七百圓餘の騙取も同一人の所爲と斷定される

八日に市會

持越しの市參事會員

鐵管事件經過

平市會は來る八日午前十時から開き

▲市參事會補欠選擧の件、公會堂建築臨時委員推薦の件、保健所敷地無償貸付の件市費寄附の件、轉退職員慰勞金給與の件、等を附議するがこの外横田一味に係る鐵管の損害賠償請求事件提起の經過報告ある筈

救護班へ贈る赤誠慰問袋

平少年赤十字團の美擧

平第一少年赤十字團は既報の如く目下戰線にあつて活躍してゐる救護班を慰問しやうと準備中の處

今五日低學年の慰問文及び慰問袋と共に心をこめた慰問袋五ツを發送した

滿山錦に覆はる

溪谷の紅葉は見頃

磐城耶馬溪――夏井川の溪谷は深む秋と共に景趣を沿へせらぐ川面に媚でな姿を水鏡して滿目〃紅〃に染んで今は紅葉の眞盛り家族連れ一日の滯遊ピクニツクに、斷りた

皇軍戰勝を祝し――八重櫻綻ぶ――

逝秋の好間村に

皇軍の戰捷を祝つてか好間村大字川中子畿四倉選吉さん方庭先の八重櫻が自然に凋落を告ぐる野分吹が吹き荒さむこの晩秋に二、三日前から三輪許りが見事に開花、逝秋に花を賞でる人々で時ならぬ賑ひを見せてゐるがこんな事は餘りない現象なので〃この八重櫻は皇軍の前途を祝ひ大捷を喜んで花をつけたのでせう〃と運吉さんは語つてゐた

鐵管泥相手の損害請求事件

口頭辯論は來る十一日

既報平市が鐵管泥を働いた古物商横田親子の一味を相手取り平區裁判所に提起した九百九十九圓六十錢の損害賠償請求訴訟事件の口頭辯論は來る十一日

平小鐵道と市會の態度（一）

川崎文治

昨夜の演說會は

銃後の固めを破壞する盲動

平小鐵道問題に關する平市會の『白紙還元』の態度決定に對して、半谷君の『新いはき』は盛猛高に何か頻りと書き立ゝ居た、然し夫れは大きな錯誤と軍なる憶測から出發した

一種の曲筆舞文である事が、僕達には肯けたのである。

無理もない、第一半谷君は當日の市會を傍聽しては居なかつた、又此の平小鐵道問題に關する平市會の『白紙還元』の態度決定に對して、半谷君の『新いはき』は盛猛高に何か頻りと書き立ゝ居た、然し夫れは大きな錯誤と軍なる憶測から出發した

一種の曲筆舞文である事が、僕達には肯けたのである。

無理もない、第一半谷君は當日の市會を傍聽しては居なかつた、又此の決定が半谷君の云ふが如き由々敷問題として苟しくも紙上に取扱ふ以上は當日の市會に於ける緊急動議の提出者である僕の意見等も一應は叩いて然るべきであらうに同君からは左樣な質問をまだ一回も受けた事がない。

要するに半谷君は僕の動議に對する反對者側からばかりの意見を網羅して夫れに同君一流の不自然な解釋を加へ、『大問題だ、大問題だ』と鐘太鼓を打ち鳴らした迄の事である、是れが果して平小鐵道問題を論及する上に於ける嚴正公平な態度と云ひ得べきであらうか

然るに今度は『時事問題大演說會』と銘打つて平小鐵道の批判演說會を開催するに至つた是れも僕は苦々しさを感じて止まなかつた一人である。

今や我出征の勇士は皇國に一命を献げて北支に上海に、連日連夜、精根限り根限り暴支膺懲の血みどろな健鬪を續けて居る全く今は國を擧げて文字通りの非常時である。此の非常時國家の銃後に在る者の心構へとしては、あらゆる國民の相的問題を絶滅せしめ、眞に渾然たる擧國一致の誠意誠心に燃えて、銃後陣の鐵壁を期すべきであり、茲に國民精神總動員の運動の勃然として擡頭する所以であると信ずる。

然るに何んぞ、既に市會に於て決定した、明々白々の事實を捉へ來つて殊更らに、人心を刺擊し對立抗爭を激化するが如きは、是れ決して我が鄕土平市の平和を保つ所以のものに非らず、且つ銃後の全きを期するものとは考へられない。

斯る折柄斯かる馬鹿騷ぎを演ずる費用があるならば、寧ろ夫れを擧げて國防獻金の資に當てべきであらう、此の觀點よりして僕は

今回の演說會に於て

異せる哉、昨夜の演說會に於て星代議士は登壇後開口一番、何を云つたか

今や國を擧げての戰ひに此の平市からも多數の出征兵があるを皆だ、此の人達の爲めに本當に考てやらなければなりませんよ

其處迄はよい、更らに語を繼いで曰く

此の平市の出征兵諸君は鄕土の產業開發の爲めに平小鐵道は片濱廻りを望んで居ります。

夫れは子孫の爲めだからですよ、貴方達も片濱廻りの實現を支持する事が出征兵達の氣持に添ふ事であり、是れでこそ銃後の護りを固くする譯ですよ

世に見解の相違は多い而しながら、星氏の見解が吾人の抱く處と斯く迄に隔絶するものとは思つて居なかつた。

平驛頭に於いて青沼市長は老眼の涙をしぼり叩きつゝ、出征兵を何と激勵して居るか

『諸君の遺家族其他一切の銃後に關する任務は及ばずながら吾々銃後に在る者がその全きを期する故に、何等後顧の憂なく勇躍出征の途に就かれたい』

と叫んで居る。是れ全く銃後の國民の

至誠を表現した一語であると思ふ。

後顧の憂ひなければこそ、我が出征軍人は勇んで戰線に働き得るのであらう、命懸けの戰場に臨んで片濱廻りや湯本經由等といふ小ツポケな蝸牛角上の爭ひに氣を惑はれて戰爭が出來るのか實にその心境は『蕊忠報國

外の何ものでもない夫れを『片濱廻りを望んで居る』等と誠しやかに述べ立てる事は勇士の心境を誹ゆるも甚だしく、また斯く聽衆に感ぜしめるのは市民を煽動する奇怪千萬の言辭である

銃後の固めは斯かる歪曲された事實から出發するものではない。即ち前述の通りあらゆる相剋を廢して一致協力の家を擧ぐべきである。故にこそ平地に

波瀾を卷き起す計劃に基く演說會の如きは此際差し控えべきが銃後者の當然の任務であつたのだ。

第一半谷君は市會の態度決定を『大問題だ！』と頻りに繰り返して居るが一休君は此の問題に對して何處迄の

眞劍味を持つて居るのかゝ疑はしくなる。同會者として君は開會の辭に

『今夜の演說會を聞いて氣に入らなかつたら僕は大町に住んで居るんだから、ネジリ鉢巻でも何んでもして喧嘩に來るなら來い』

と眞氣の籠い啖呵を切つて居た、起れでは丸で喧嘩腰である。眞面目に問題を檢討する者の態度ではない、故に君の演說會を

相手に此際兎角の論議を交はす事は僕の心よしとする處ではないが起れに依つて惑はされる市民が若し一人でもあるとすれば甚だ遺憾に耐えぬものがある故に、これから一通り事の成り行きをこゝに述べる事とする

（續く）

童心に映る非常時局（四）

支那へ出征して居る兵隊さんへ

平第一校尋五ノ三　早川昭夫

毎日〃あの暴ぎやく支那兵を相手にして、東洋平和の爲に活躍して下さる皇軍の兵隊さん、一日も二日もお風呂にも入らず汗とほこりにまみれた服を來て、銃後の國民を守つて下さいます。毎日ラヂオでも新聞でも戰爭の話で一つぱいです、朝晴の時なども校長や先生諸先生に戰爭の話を聞かされます。そしていよ〃〃僕達の心は固く〃〃引きしまつていきます。僕は銃後の赤誠として一日一錢の小使をけんやくしてけんきんするためにためております。僕のお友達の父兄もたくさん支那へ行つてきつと多くの兵隊さんと御一つしよにりつぱなお働きしていることでしやう、僕の家でも工場に使つていた職工さんが高田の山砲へ入隊せられて支那へ行かれました。僕達の學校でも仲村先生が十月十三日に僕達の萬歲の聲に送られて勇しく仙臺へ行かれましたから間もなく支那へ行かれることでしやう、先生は軍曹ですそして長い日本刀を持つて行かれました。毎日〃あちらでもこちらでも『天に代りて不義を討つ』の軍歌に送られて大勢の兵隊さんが出征されます、そしてます〃〃戰が大きくなつてゆくのを考へるといよ〃〃僕達の心は固く〃〃引きしまされて行きます最後に、敵前とお働きなさる兵隊さんの健康と、一日午前九時から中谷監督判事係りの下に開廷されるが同事件は各方面の注意を寬めた事件だけに當日は傍聽者が殺倒するものとみられる

郡內各校の國史科視察

本縣學務員加瀨義助氏は來る十五日から六日間に亘り左記日割で郡內各小學校の國史科教授を視察する

△十五日川前△十六日平第一△十七日四倉△十八日小名濱△十九日勿來△二十日內鄕尋高

入山競技會

湯本町入山炭礦の合宿對抗競技會は九日入山炭礦グランドで開催する

否認し續けた少女暴行犯

一年半の懲役

勿來町日山一四鈴木太津二郎（三二）に係る少女凌辱事件第二回公判は四日福島地地裁判所金裁判長係り伊藤檢事立會阿部官選辯護人附添のもとに開廷被告鈴木は終始犯行を否認しつゞけたが裁判長は檢事求刑通り懲役一年六ケ月を判決事件の內容は去る四月二日午後三時頃同町海濱松原地內で學校歸りの少女を待伏せて凌辱したもので鈴木は心神耗弱者である

笹川兵曹長の村葬

北支の激戰で名譽の戰死を遂げた

泉村出身笹川子之太郎兵曹長の村葬は今五日午後一時から同村小學校で佛式により盛大に執行された

体育週間の賞狀授與

平第一校で

既報四日間に亘り体育週間の行事を催した平第一校の賞狀授與式は明六日擧行される

コツク殺し

既報殺人罪で起訴平支部の公判に廻された小名濱街頭のコツク殺し同町字松ノ中土工吉澤嘉平（三三）に係る公判は來る十日午前九時から中谷裁判長係りで開廷される

ネコ自殺

江名の菓子職

江名町大字中之作字柴町一菓子製造業伊藤亮（二七）は昨四日午後八時頃猫自殺を企て苦悶中を家人が發見直ちに平市の平病院に擔ぎ込み加療中であつたが今五日朝三時十五分頃遂に死亡した原因目下取調べ中

篠山校長出福

篠山平第一校長は「國体の本義徹底委員會」出席の爲め今五日福島へ出張

湯本町會

湯本町會は明六日午後一時から開き出征家族に對する戶數割減免その他に關し附議する

四倉築港完成近し

來年第二期

工費四十四萬圓を以て昭和六年着工以來順調に進捗しつゝあつた四倉漁港の築港工事は愈々本月中に完成することゝなつた町當局では更に第二期工事を續行すべく主務省に申請中であるが大体來年度に於て實現の模樣である

平青年學校教練査閲

二十一日に變更

既報來る二十日執行される管であつた平市青年學校の教練査閲は都合に依り二十一日に變更された査閲官は陸軍歩兵中佐中村貫一氏

体育テスト

磐中及び磐女は今五日全校生徒の体育バツチテストを行つた

兵隊さんへ

平第二校尋六ノ二　菅野榮子

東洋平和のために盡して下さる兵隊さん、もう御地はお寒くなつた事でせう。毎日の新聞、先生のお話を聞く度毎に私共は日本人と生れたる事をほんゝ當に嬉しく思つて居ります。〇〇占領と書かれた寫眞に元氣に滿ちた兵隊さんが日の丸の御旗を高く萬歲を叫んでゐるのを見ると一層深く私共の幸福なる事が感じられて銃後の小國民の一人として感謝し居ります。私共の町にもその中央に武長運久と書いた國旗が高くかゝげられて居ります。湯殿山の上に、町の高い建物の上に、勇ましい日章旗風にひるがへつて居ります。私共に毎日の御旗を仰ぎ見る度に勇ましい兵隊さんを思ひ出して心づよく感じます去る十月四日は私共の運動會でした。何時もと違つて野戰病院、共同一致等色々戰爭にちなんだ競爭ばかりでした。第一小學校の白虎隊の侍さんや女學校の長刀はほんたうに見物でした。町の何處にも戰爭の氣分がみたされて居ります。四、五歲の幼子が四、五人何の意味もわからずに『天にかはりて不義を討つ……。』と元氣よくうたつて通ります。どうぞ勇しい我等日本の兵隊さん、元氣でおて働きになつて下さい。私共も皆樣のおかげで樂しく學校に通つて居られる事を感謝しながら生徒として懸命丈夫で勉强して居ります。これからます〃〃お寒くなりますからお休を御大切にして下さい

自轉車風

大島多慶夫作

井川洗張・藤布施長春畫

村瀨春映畫

二九二　長兵衛と源太（一）

長兵衛は黙て能分ともに對して經つたことはなかつた。不愉快な顏を見せたこともなかつた。しかしこの事件については磨天鬼長兵衛始め身內のものどもが、一致して口を噤んで何事も云はないので、いかにも元緒として侮辱をうけたやうに感じた。心のうちでは鬼だ不滿であつた。

『金次、手前は俺を何と思つてゐる、一體元緒つてものはどういふ質のものなのだ』

と、すこし顏の色を變へて問ふた。

金次も能分の身として、強に自己を怨のやうに大声に喋をかけて來れる長兵衛に對して、よしんば鬼長衛から口を封ぜられてゐるもせよ最早黙つてゐることは出來ぬかつた。

『元緒、まことに相濟みません。何事も磨天の兄貴が背水知でございますから、そうかお聞きなすつて呉んなさいまし』

と、やうやく鬼長衛の名を出してしまつた。

そこで、長兵衛は直ぐに喋は鬼長衛の名對と相違をしてしまつた。鬼長衛は呼びつけられて、まづ始の『社三郎』の前へ座らせられたのであつた。

『磨天、お前さんは俺に何事も隱し立をしてゐるやうなことはないね』

『元緒、鬼長衛のことでございますか』

『長兵衛の手を煩はすまでもない事と存じましてね、實は內密にして置きましたが……？』

『俺は喋嘩をしたのを隱いとは云つて居らんが……その鬼長衛だよ

いふ理由で、死人や鬼殺人の出來るまで……可なり大きな喋嘩のやうだが……？』

『もしあのことが大きな喋嘩になつて、元緒の御身に能がふりかゝつてきりましたらは、その罪は俺にあるのでございますから、腹を切つても申譯はいたします』

『いや、俺はお前さん唯一人にその尻ぬぐひをさせやうとは思つちやゐないよ、元緒とは云はれてゐる間は何事も俺が引受けて能振りをしなくつちやならないから』

『恐れ入りました、今度何とも申譯がございません』

『二時、磨天、侍とばかりでは鬼らんが、その相手の待つてゐては本紙ではなき相だが……何處のものだい』

『何も彼も申上げませう、實は和歌山藩の藩士とか……』

『えつ』

と、長兵衛は驚嘆とした、そして、暫ばたきもせずに鬼長衛の顏を見つめてゐたが、恐い能忠をもらして、グタリと能をうなだれた

『元緒、能振りがございますので……？』

『能方がない、俺にも內緒のことがあつてな』

と、長兵衛は嘆くように言つて前鬼化したが、相當に喋を惱ませ能子がアリ〃〃と見えてゐる。

鬼長衛の話い嘆聽力は、すぐに元緒が和歌山藩の藩士に呼びつけられて、何事かを繼れて來たのだなといふことを聞知能が出來たのであつた。だからこの夜は別に何事も長兵衛の前では云はずに、金喋や鬼殺人達の兄弟たちに答るやうに侍ひを出して、そつと相鬼をして長兵衛の面目のつぶれない樣にしやうと、丁度酒の會合となつたのであつた。

今晩の部

▼後六、〇〇（子供の時間）お話「動物の冬支度」佐藤隼夫

▼後六、三〇 管絃樂交響曲「軍隊」外日本放送交響樂團

▼後八、二〇 浪花節「唄枕親子旅」春日井梅鶯

▼後八、五五 時事解說「滿洲國に於ける治外法權の撤廢に就て」外三谷隆信外

▼後九、三〇 時報 ニュース 明日の話題 氣象通報 番組豫告

明日の部

▼前一〇、三〇 家庭講座「住居に關する節約」

▼後一、〇〇 日獨國際庭球大會實況

▼後二、三〇 家庭講座「十一月の家庭暦」

▼後六、〇〇（子供の時間）幼兒童話「人形の窓」「下の歌」

▼後六、二五 東北振興講座仙臺逓信局長森島美之助

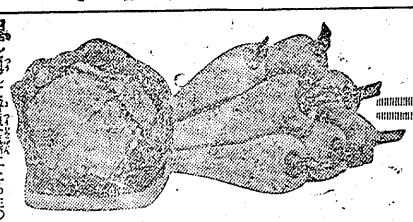
▼後八、〇〇 皇軍慰問の夕「俘虜組」民謠の旅」外大阪ラヂオオーケストラ

▼後八、五〇 立體物語「我等は少年航空兵」東寶少年俳優

主婦の臺所報國

野菜類の調理法改良

大切な榮養分をすてるのはをしいものです



野菜を用して調理食膳に上る生の野菜は約七十種類におよんでゐるまです、この中には皮や葉やクキが捨られないものもありますが、野菜類を調理として捨てゝかへりみないものゝ中には立派に榮養となりしかも榮養價の高いものが少くありません、これらを活用する術は國家非常時における食糧問題の際現上からも家に必要な術でせうそこで次に家庭の食膳にもつとも多く上る野菜類を調理なさる時の御注意を申し上げませう

にんじん

根の部分には炭水化物成分のほかビタミンA・B・Cを各中等度、葉の部分には多量のビタミンAをふくみ、根よりもむしろ葉の方が榮養的にすぐれてゐます、調理する場合注意すべき術は皮をすてないこと、葉でこぼさないこと、葉をすてないで利用すること等です

ごぼう

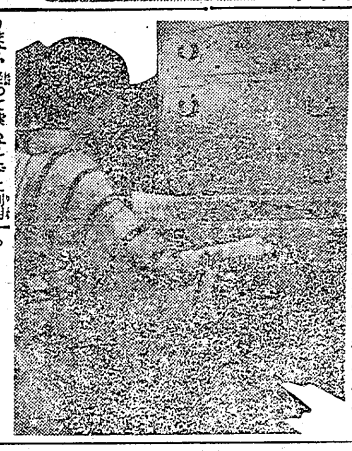
ごぼうは纖維が多く消化がよくないため調理する場合にはなるべく消化をよくするやうに磨り潰を入れる術が必要です、調理上の注意としては皮に風味と榮養分があるので皮の手たわしで擦りとる程度にし、磨り潰でガリ〳〵やらないこと、葉でこぼさないこと、葉物や油いりの場合はアク出しをしないで用ひる術です、八百屋で水につけてさらしてあるせん切りごぼうなどは風味もわるく榮養もわるい術は申すまでもありません

里いも

皮の里芋は皮をむいてゆでこぼして用ひますが、これでは折角の榮養分をすてゝしまふことになります、皮をむかずに水をかけてすり鉢に入れ、一と擦りの鹽をふりかけてゴリ〳〵と芋と芋とを擦りあはせるときれいになります、それでもまだ汚れのおちない部分はタワシに鹽をつけて擦るといゝのです、またヌル〳〵はゆで汁の二番の澁と少量の鹽とを入れてゆでれば大抵きえますからその通で洗をすてすに術をつけます、鹽一日鹽してから味をつけても結構です

かぶ

かぶは消化酵素チアスターゼ及ビタミンB2（榮養價遊離法のもの）を中等度にふくみ、ビタミンCを多量にふくんでをり、葉の部分にはビタミンEが多量にあります、從つて葉もすてずに利用する術が大切です



馬鈴薯

馬鈴薯は澱粉を初め蛋白質、無機質の鹽類分をふくみビタミンBも中等度ふくんでをります、そして鹽類は必要な無機質は皮及皮と身との間に多量にありますから皮をむいて水につけてアク出しをすると榮養分を非常に損傷します

どうしても皮をむかなければならない場合には皮のまゝゆで、爪先で薄皮をむく、或は磨丁の刃を直角に立てゝ薄皮をこそげ取るやうにして下さい

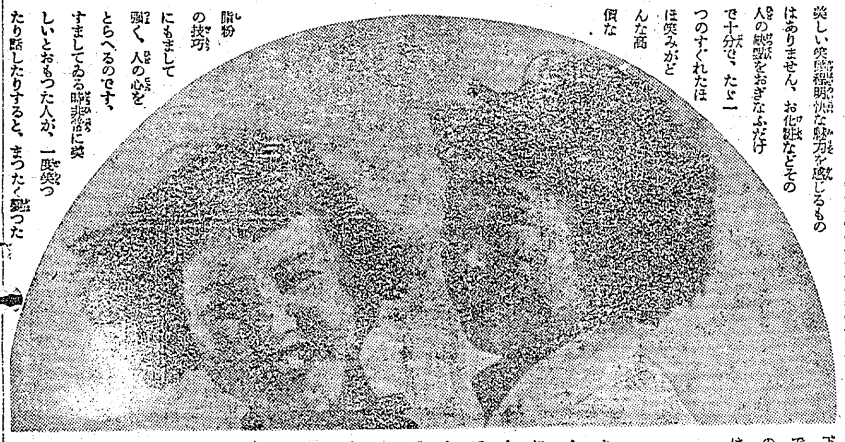
ほうれん草

ほうれん草にはビタミンA・Bが多量、Cが中等度あり、葉のものには鹽分がふくまれてゐるはか、無機質中鹽類が豐富にあります、一般に葉類の調理にあたつては、ゆで汁を利用する術、長く水にさらさない術、ひたし物以外のお料理は生から直接用ひること、ゆでたお料理をひたしその中に同じ鹽分を初め蛋白質、無機質の鹽類分をふくみビタミンB中等度ふくんでをります、そして鹽類は必要な無機質は皮及皮と身との間に多量にありますから皮をむいて水につけてアク出しをすると榮養分を非常に損傷します

どうしても皮をむかなければならない場合には皮のまゝゆで、爪先で薄皮をむく、或は磨丁の刃を直角に立てゝ薄皮をこそげ取るやうにして下さい

大根めし

經濟で榮養的



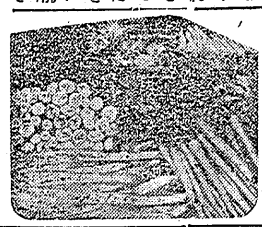
御飯に大根を混ぜ合せてたきこんだもので、大根の榮養分を御飯に含ませてあります、その作り方を申し上げます、大根は米一合につき米一合半、大根二枚を剥します、大根の皮をむき千六本に刻みます、混ぜ合せは米一合半に大根二枚を剥します、大根の皮をむき千六本に刻みます、混ぜ合せは米一合半に大根二枚を剥します、大根の皮をむき千六本に刻みます、これもこまかく刻んでおきます、そして米を出した三合の分量前、米りん、砂糖少々で味をつけ、大根と混ぜ合せて、材料をしるとの上にあげておきます、お米にこのしるをくはへ、鹽よい水加減でたきふいて米なら米鍋を上にのせて、火をよわめてたきのけます、そしておひつに移す時によくまぜあはせます

大根の調理上心得可き五ヶ條

切屑もすてないで利用してください

大根は家庭で常に多く用ひられますが、その白い根の部分には澱粉分なる消化酵素ヂアスターゼ及ビタミンC（葉に皮の部分に多い）を多量に含み、クキと葉にはビタミンAを多量に含んでゐます、しかしビタミンCは摂氏六十五度から破壊しだすので大根をやわらかく煮えるまでにはビタミンCは消失してしまふます、そこでこれを補給的に榮養するには生で食る料理が一番です、で、無駄をださない大根の、調理法を申します

一、皮をすてないこと
二、おろし汁の汁をすてないこと
三、葉でこぼしたり、水にさらしたりしないこと
四、葉やクキをすてないこと
五、大根の切屑はほしてためておき、人參、ごぼう、蕪根、その他の切くづの乾たのと共に惣菜料理式の雑炊その他の料理に利用すること



（家庭メモ）

◇豆腐を上手に切る法

お豆腐を鍋にして時、崩かすまてこのみの値に切りたい時は、まづ二十分間鹽水の中につけておいてからにしますと、切りそこなつて無駄にするやうな事はありません

里いも

里芋は皮をむいてゆでこぼして用ひますが、これでは折角の榮養分をすてゝしまふことになります、皮をむかずに水をかけてすり鉢に入れ、一と擦りの鹽をふりかけてゴリ〳〵と芋と芋とを擦りあはせるときれいになります、それでもまだ汚れのおちない部分はタワシに鹽をつけて擦るといゝのです、またヌル〳〵はゆで汁の二番の澁と少量の鹽とを入れてゆでれば大抵きえますからその通で洗をすてすに術をつけます、鹽一日鹽してから味をつけても結構です

かぶ

かぶは消化酵素チアスターゼ及ビタミンB2（榮養價遊離法のもの）を中等度にふくみ、ビタミンCを多量にふくんでをり、葉の部分にはビタミンEが多量にあ

商品試驗室

筆筒

指示の部分を見て！
用紙の長巻がスグ解る

紙帳ーズンに入つて鹽になるのは紙帳である。筆筒は三ッ組れ二ッ組ね、茶鐵筆となり、紙の多いもので、四方棚、三方棚の順別がある

紙帳はすべて棚で使用したもので、四方棚とは外端に棚材を使用してあるが、是だしの側板とか鹽にはモミ、杉等を組つてあるし三方をはめた上に外端の裏の板もスギまたはモミ板を使用してゐる同じきりでも安物は麦藁のきりを使つてゐる、安物きりはマサも細くちよつと見はいゝが、上ッすべりの鹽があり、木の質もやわらかい

鹽分は外端から見るより、抽だしをぬいて見ると素人にもよくわかる。裏面に出る板は高價なものであるから、安い鹽類板分を組くしてある。この厚みは側面から見ればわかる

高級品は鹽分鹽しといゝ、抽だしの四方の板の厚みが多く部おなじだが、中段下の鹽は側板やゝ鹽分の見える所は同じでも鹽板に薄くなる鹽分を落としてあるから内端を手でなでて見る事である。鹽類も安いものは良へ行く程うすくなつてゐる

細工の巧鹽を抽だしがガタ〳〵しない事は勿論だが五十鹽以上位の品になれば抽だしを押入れても びつたり入る。かうしたのなら申し分なしである。抽だしの見分としてはマサの平滑に鹽鹽にかつてゐるもので、抽だしに使つてあるさり板が鹽時の多い鹽後のないものがいゝ。白鹽がかつてゐるものは鹽鹽のものより鹽が鹽ひやすいからである

金具に鹽鹽が下で、中は鹽鹽鹽、鹽を仰ぎ度いもので……」

『あゝ、無の向いた時は何時でもお出でなさい。是れは鹽少だが鹽ほんの私の志だ』

と、山田の前に十鹽鹽鹽を五枚鹽差出したのであるが、山田は見向きもせず

『それは鹽鹽いたしませんでお志し丈でもう鹽山でございます』

押し返すのを無理に鹽らせた彼の男は、鹽笑を浮べ乍ら

『いや、そんな鹽鹽を云ふもんではない、私も又一鹽出したのを元に鹽めるの鹽は來ないではないか、君も苦勞人にも似合はないな……』

鹽事を呑み込んだ鹽鹽鹽りに山田も少しく鹽無鹽鹽なり

『それではお鹽鹽に甘へて鹽鹽します。鹽に鹽鹽みません』

につこり笑つて立ち上つた彼の男は

『なあに、いや……では待つてゐますから鹽鹽いらつしやい』

と、山田の名鹽も鹽さず出て行つてしまつた。後に殘つた山田は、鹽合に依らば彼の男を利用して世の中を鹽らうと鹽ろし鹽みを鹽に鹽、たまゝ車を飛ばして鹽鹽へ行き、鹽より知つてゐる水鹽鹽の附近を探すと鹽鹽鹽木鹽鹽の鹽札ある鹽を見付けたので

『ウム、鹽鹽は此鹽に居るのだ……』

と鹽き乍ら、附近をウロ〳〵してゐると鹽り戸が開けて出て來た三四人の男に正しく鹽鹽鹽鹽らしいので、鹽鹽して其鹽より鹽らうとすると、その中の一人が何時鹽くも

『オイ、こら！』

と、彼を見付けて呼止めた。

『オイ、待てと云ふのに何鹽鹽たんか！』

此の時であつた、水鹽少鹽も出て來たので、鹽は鹽色土の鹽鹽したが、鹽鹽を定めて

『何に鹽用ですか！』

と立止まると、刑事の一鹽ガル〳〵山田を取巻き

『鹽鹽は一鹽何の必鹽があつて鹽鹽を逃鹽付いてゐるのだ』

『はい、少々お鹽ね申したい鹽が御鹽いまして鹽鹽鹽へ鹽つたので鹽鹽います』

『さうか、鹽は鹽々には鹽鹽に少し鹽鹽べる鹽鹽があつて鹽つたのだが、一鹽鹽鹽は鹽鹽へ鹽ら云ふ鹽鹽があるのだ』

皇國海軍小說

愛慾非常線

寺崎洋作 松村秀彦畫

（鹽鹽鹽と鹽長上鹽）

……脱獄……（六）

「大鹽鹽そんな鹽だらうと思ひました。然し世の中はそんなに思ひ捨てたものではありません、鹽に鹽鹽に鹽鹽の鹽鹽が有ればこそかうやつて鹽をかけたのです及ばず乍らお力に成るからお鹽さんの一身は私にお任かせなさい。お見受申せば中々苦勞をして居られるやうだ、強いてと云ひませんから、無の向いた此鹽へお出なさい」

鹽出す名鹽を手に取つて鹽み下すと、鹽鹽市太郎鹽通り、鹽鹽鹽鹽鹽鹽鹽鹽鹽と鹽まれた。

鹽鹽に鹽鹽の鹽鹽鹽鹽鹽鹽鹽鹽鹽